

町医者だより

平成26年12月号

うがい薬の話

〈発行・お問合せ先〉

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ヤッポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

10年以上前にイソジंगाーグルを用いたうがいは殺菌効果がなくて意味がないという発表が日本でなされ、それ以降イソジंगाーグルを使用しなくても水でのうがいで十分と患者さんに説明して来ましたが、論文を調べるとそうでもないことが分かりました。

Dermatology 2002年 (Shiraishi Tら)によると

イソジंगाーグルに30秒間さらされると口腔内細菌は全て死滅し、イソジンうがい直後の菌の消失率は99.4%であったと報告しています。さらに中学校でイソジंगाーグルでのうがいを励行させたところ有意差を持って風邪やインフルエンザでの欠席率の減少を認めたと報告しています。

Cochrane Database Syst Rev 2013 (Shi Zら)によると

人工呼吸器(レスピレーター)を装着した患者さんは肺炎になりやすいです。人工呼吸器関連肺炎と呼ばれていますが、この予防に口腔ケアが重要です。本論文では人工呼吸器関連肺炎の予防にクロルヘキシジンによる口腔ケアがもっとも効果的であるが、イソジंगाーグルによるうがいも多少効果を認めると報告しています。ただし、別の論文であるCritical Care Med 2014 (Seguin Pら)によるとイソジंगाーグルでの口腔ケアは、人工呼吸器関連肺炎を予防しないばかりか、かえってさらに重篤な急性呼吸窮迫症候群を引き起こす可能性があるとしています。人工呼吸器を装着しているという事はかなり重篤な状態の患者さんでの検討ですから一概に健常者には当てはまりませんが、うがい薬といえども薬剤ですので身体に合わない場合もあります。

Aust Dent J 2012年 (Tuna Aら)によると

拔牙をすると一過性に細菌が血液中に入ることが知られていますが(程度は軽いかもしれませんが敗血症です)、親知らず(第三大臼歯、知歯というそうです)の拔牙後に、イソジंगाーグルやクロルヘキシジンでうがいを拔牙前にするとこの一過性の敗血症の頻度が有意差をもって減少すると著者らは報告しています(両者の薬剤に差は無いようです)。

まとめ

クロルヘキシジンは消毒薬でヒビテンとかヘキザックという製剤名で日本でも主に皮膚の消毒に使用されています。しかしながら、これらの製剤はうがい薬としては使用できないようです。また理由は分かりませんが、喘息の人への使用は注意が必要と医薬品情報(いわゆる効能書き)に記載されています。ただし、クロルヘキシジンを含むうがい薬は医薬部外品として市販されています。コンクールという商品です。興味のある方は薬局でご覧になってはいかがでしょうか。ただし、今回お示したようにイソジंगाーグルのうがいもそれほど悪くは無いようです。口腔ケアは、人工呼吸器関連肺炎に限らず、肺炎予防に大切です。うがいなどのセルフメディケーションはもちろん必要ですが、一番大事なのは専門家である歯科医に定期的に虫歯だけではなく歯周や歯間のケアをお願いすることだと思います。